

わかば幼稚園の生活環境とおもちゃ ～木を使うことは子どもの生活にとても良い～

学校法人旭川宝田学園 わかば幼稚園 園長 佐 藤 公 文
URL <http://potato6.hokkai.net/~wakaba/>



1 はじめに

わかば幼稚園は昭和51年に旭川市緑が丘の新興住宅街に開園し40年になります。地域の3歳～6歳の子どもの心と体を大きく、たくましく育てるため、幼児期に経験すべきことを遊びの中でたっぷり経験させるため、様々な工夫をして幼稚園経営を進めています。その一つが木のおもちゃを導入してきたことです。初めはヨーロッパの木のおもちゃ、ままごとセットなどを導入しました。さらに、室内環境も木に少しこだわって、幼稚園の室内の改修を少しづつ進め、幼児に合った生活環境を整えてきました。そうすると、幼稚園全体の雰囲気が落ち着いた感じになり、幼稚園教師の教育の進め方も園児中心の幼稚園生活、園児の求めている遊びを実現できることをまず考え、教師の園児とのかかわり方も変わってきました。

わかば幼稚園の教育にとって木の生活環境や木のおもちゃが幼稚園教育にどんな意味があるのかを述べたいと思います。

2 生活環境の中の“木”

幼児が生活し遊ぶ場所として、幼稚園の中や外のイメージは、これまで、かわいい色合いやパステル調ではないでしょうか？でも、幼児に本当に相応しいかというと少し違うように思います。開園当初はわかば幼稚園も壁や天井はかわいらしい模様の絵柄やピンクや黄色の配色の室内でした。しかし、開園以来20年ほどして壁や天井の修繕、色の塗り替えの時に「家庭の延長のように、子ども達が落ち着いて幼稚園生活を送れる生活環境」にするためには、かわいい色やパステルカラーにすることではないと感じました。子どもにかかる場所の建物を実際に見たり、調べたりすると、木のような自然に近い色合いのほうが、家庭のように落ち着く生活環境にできると考えました。実際、最近の幼稚園には木の材料が多く使われています。そこで、まずは保育室の壁やドアを自然に近い柔らかい木目調の色合いで改修を始めました。その後、廊下、

お遊戯室と保育室の棚やロッカーなどの家具、園児用テーブル、玄関の靴箱などを統一感があるよう、同じような色合いの木製の家具に少しずつ替えていきました。



数年前にほぼ室内の改修は終わりました。幼稚園内のどこへ行っても壁や家具の色合いは柔らかい色の木目です。園児はもちろんですが、教師や親にとっても、長い時間そこにゆったりとしたくなるようなホッとできる場所になっています。

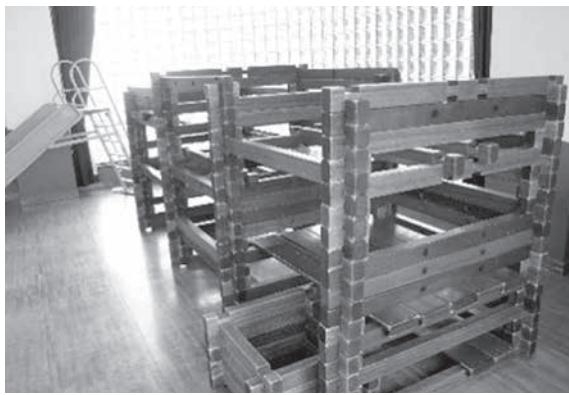
3 大型の木製遊具

近年、幼稚園、保育所にも木の教材やおもちゃ、木の遊具などが増えています。戸外の遊具などは、以前は鉄製のものが主流でしたが、近年、木製遊具が増えています。確かに、鉄製の遊具よりも、温かみや「面白そう」というを感じられます。

[実例1] グランドの丸太砦（既製品の遊具）は丸太を組み合わせた遊具です。写真の通り、本体を2台購入し、丸太の橋でつなぎました。これで、丸太砦はジャングルジム、基地、ままごとの家、お店屋さんごっこのお店、アスレチック遊具・・・、園児の発想によって様々な使い方ができる大型木製遊具になったと言えます。



[実例2] お遊戯室のバークロス（注文して製作・オリジナル）は様々な形の家が作れる室内用ログハウスの遊具です。結構な重さのある材料ですが幼児でも比較的簡単に作ることができます。教師は子どももが乗っても安全かどうかに注意しながら、子どもがイメージしている家を実現できるように、あるいは作った家で様々な遊びができるように手助けします。バークロスは年齢を問わず、常に誰かが遊んでいる人気の遊具です。木を使った遊具は飽きずに長く使えます。



[実例3] アカマツの大木も園児にとっては大型遊具の一つです。梢は幼稚園の2階より大きくなりました。木登りは危険なのでやらせないという考え方もあります。しかし、子どもは4～5歳くらいになると、木に登りたくなるものです。登りやすいように太い枝は残しています。自分の力で登ることのできる園児だけが登ります。もちろん無理に登らせることはできません。特に雪が積もって地面が高くなる冬に、木登りに挑戦する園児が多くなります。自分の力で登る園児は木の枝をしっかりとつかみ、安全な足場を考え、登っています。「きけん！」と感じた時は反射的に木にしがみつくこともできます。子どもの冒險心を満たしながら生きる力を育て、植物として生きている木と

触れ合うため、様々な意味で木登りは必要だと思います。



4 保育室の木の遊具

わかば幼稚園の保育室の一番大事なことは「園児の好きな遊びができる」ということです。子どもの好きな遊びができるように「好きな遊びができる場所がある」「好きなおもちゃがある」ということをクラス担任は日々考えています。担任の考えるおもちゃは子どもの成長に重要な意味があるということです。その中でも特に幼稚園の木の遊具、教材として木のおもちゃは感触、面白さ、完成度どれを考えて、存在感のある良い教材といえます。

また、それぞれのおもちゃは子どもの発達や年齢、興味関心の度合いによって使い方が違ってきます。さらに、「遊びながら物を積み重ねる」「おもちゃの動きを目で追う」「数学の概念を遊びながら学ぶ」「友だちと協力して作る」など、遊びながら子どもが成長したり、教師も子どもの成長を確めたり、わかつたり、子どものあそびは子どもの成長に重要な意味があると考えています。

[実例1] 基本積み木とカプラ（既製品）

保育室には積み木で遊べる場所を常に用意しています。基本の積み木とカプラは、形は違いますがともに塗装をしていない自然木が使われています。気持ちの良い手触りが大きな特徴です。部品の一つ一つが同じ形、同じ縮尺で、ある程度の重さがあることで、大きな積み木の作品、子どものイメージした建物、町や道路など・・・様々な作品を作ることができます。も

ちろんプラスチックのブロックも子どもは興味をもって遊びますが、毎日の保育室での遊びには木の積み木がぴったりです。みんなで協力すると天井まで届くくらいのタワーや子どもが数人入れるかまくらを作ることができます。子どもは使いやすい積み木とゆつたり遊べる時間と場所を用意できれば、想像力を生かし、様々な遊びをし、達成感、満足感を持つことができます。



[実例2] ヨーロッパ製木のおもちゃ

おもちゃで遊ぶことで大事なことは自分の手を使っておもちゃを動かすということです。電池やモーターが入っていてスイッチ一つで動くものは幼児には合っていません。幼稚園では子どもが手に取って動かすことが遊びになっているおもちゃを用意しています。ヨーロッパ製のおもちゃは手で動かすことを考えているものが多いと思います。いくつか紹介します。

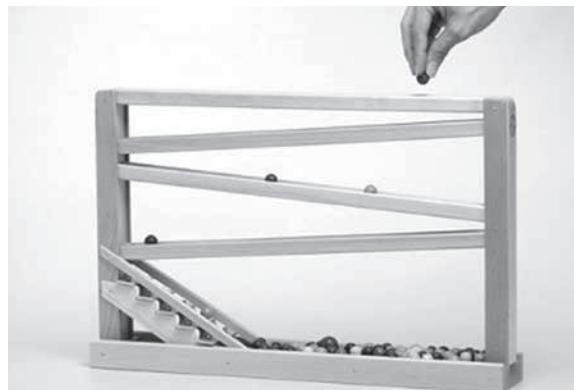
①メリーゴーランド（スイス製）

はじめて幼稚園で購入したヨーロッパのおもちゃメリーゴーランド。これはおもちゃの基本で手を使って遊ばないと動かないもので自動では動きません。木製なのに気持ち良く回ります。しかも、バラバラにして組み立てもできる。楽しくてきれいなおもちゃです。



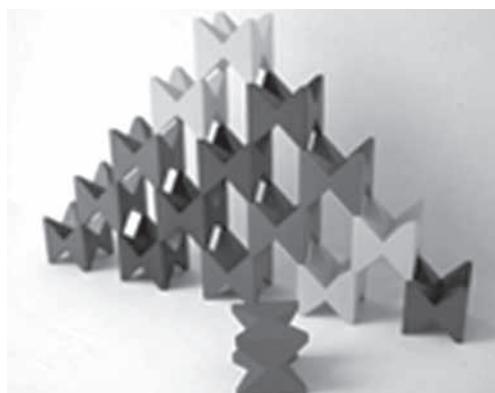
②シロフォン玉の塔（ドイツ製）

このおもちゃは玉をつまんで上部の穴に玉を入れなくてはなりません。そして玉が転がることで、玉を目で追う追視をして、最後にシロフォンの良い音が響きます。理屈なしに楽しい作りになっています。このおもちゃの遊び方で子どもの成長がよくわかります。さらに満足いくまで何度も遊ぶことができます。子どもに合ったおもちゃの最高の見本です。



③ネフスピール（ドイツ製）

積み木おもちゃの代表です。誕生して58年にもなるそうです。何と言っても不思議な形の蝶形のパーツが大きな特徴です。しかし、その積み方は本当にさまざま子どもなりに考えたり工夫したりしながら楽しく遊べます。また、大人が遊んでも楽しいし、きれいです。保育室に置いてあると誰かが必ず遊んでいます。ヨーロッパの積み木は鮮やかな色と塗料の安全性を両立しています。子どもがなめても安心にできます。



5 北海道や旭川の木のおもちゃ

約25年前からわかば幼稚園でヨーロッパの木のおもちゃを導入しました。理由の一つは「幼稚園でしか

遊べないおもちゃ」 「価格は高いけれども幼稚園の遊具として導入したい」と考え、毎年少しづつ木のおもちゃを導入しました。はじめはヨーロッパのおもちゃばかりでしたが、その後、北海道や旭川の木のおもちゃが販売されたので、子どもが楽しいもの、幼稚園児の使用頻度に耐えられるおもちゃを導入してきました。

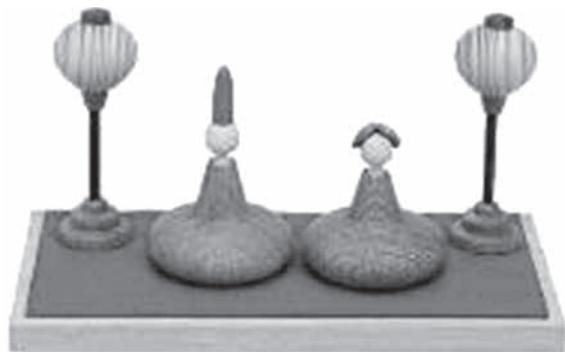
〔実例1〕平成9年に幼児教育教材の展示会で北見市留辺蘿の（株）北樹製木の砂場（考案・作：故伊藤英二氏）を目にして、その素晴らしいさに感動して幼稚園への導入を決めました。一番は木の砂（玉）の一つ一つの感触の良さです。また、いろいろな種類の木が使われていて、白っぽい茶色から濃い茶色までいろいろな色があります。その様々な木が子どもの想像力を掻き立て「ハンバーグみたい？」 「ビー玉みたい」など、木の玉を手にするだけで楽しそうです。小さい子は口に入れているときもあります。塗装も自然由来の塗料を使っているので安全安心です。

大人にも好評で足や背中のツボを気持ちよく刺激してくれて最高です。最近はいろいろな施設に置かれるようになりました。わかば幼稚園で初めて見て、触った方はみなさん「いいですね～」と言ってくれました。木枠の最上部は表面が荒れたため、表面を削り塗装しました。それにしても約17年たっても玉も本体もきれいなままで。木の遊具は長持ちします。



〔実例2〕旭川に三浦木地という会社があります。はじめて知ったのは15年ほど前、三浦木地の「木製の雛人形」を購入した時です。その後、幼稚園の教材用に使える木のおもちゃを作っていると知り、2年前に「どんぐりころころ」1年前に「さざ波」を購入しました。子どもたちに大人気でいつも誰かが使っています。幼稚園で使うおもちゃとして長く使えること、

子どもが繰り返し使って楽しいこと、部屋に飾っておいても綺麗なこと、などの条件が満たされているおもちゃが旭川で作られているということはとてもうれしいことです。



6まとめとして

改めて、幼稚園のおもちゃについて振り返ってみると、木の重要性を強く感じます。保育室も遊具も材料に木が使われているものは、子どもの生活環境の中で重要と感じます。木目や木の色合いは暖かさと落ち着きを感じさせます。しかも長く使っていても飽きがこないと感じています。遊具なども長く使え、修理もできます。

これからもできるだけ木を意識した幼稚園の生活環境の充実、教材や遊具の導入を考えていきたいと思っています。